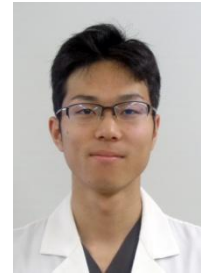


和歌山病院臨床実習感想文



崎下 雄佑

2月21日火曜日から1泊2日、結核の基礎知識に始まり、N95マスクや酸素療法について実際に体験させていただき、疾患への恐怖や先入観にとらわれた過剰対応に陥ること無く、必要十分な対応は何であるかを考えることの重要性、酸素投与を受ける患者さんにとって鼻カニューレから吹き出す酸素の圧力やリザーバーマスクを装着する感覚は意外に快適ではないことなど、実際の現場における心得や治療を受けている患者の気持ちを理解することができました。また、胸部レントゲンの読影方法についてその原理から理詰めで読み解いていくことを教えていただき、今までバラバラに詰め込まれていた知識が有機的につながっていく思いがしました。理屈で導き出せる知識については丸暗記せず背景を考えていく、どうしても暗記せざるを得ないものはブロンコ体操のように工夫して覚えていくといった、学問の基本的な重要事項を思い出させられました。

数年前、障害者実習の際にも和歌山病院のお世話になりました。重症心身障害児施設としての側面と今回の一般的な病院としての側面の両方を見ることができ嬉しく思います。2日間濃密な実習をさせていただきました、ありがとうございました。